



<ひとこと>結婚式を控え、風邪をひきました。医者にもらった「気合」という薬が効きません…

第2回柏市自立支援協議会

10月26日開催

今年度の柏市自立支援協議会の会議体と構成：
 ①全体会議にあたる自立支援協議会（協議会メンバー）
 ②はたらく・こども・相談支援の3部会、
 ③その間を結ぶ運営会議
 ☆部会には協議会メンバーそれぞれがどこかに入る形になっており、各部会では部会長・副部会長が選出され、運営会議は部会長、自立支援協議会の会長または副会長、事務局（障害福祉課）で構成。

それぞれの部会では、事例検討から浮かぶ課題の抽出を2回終了している時点であり、各部会のまとめと課題の報告を、共通する課題、短期でできるもの、中長期で考える必要があるものなど、テーブルに出すことから始まりました。

事例検討のまとめ
 （主だったもののみ）

- はたらく部会…
- ・若いうちからの仕事のイメージ作りの提供（体験実習のしくみなど）
- ・関係機関のネットワーク強化
- ・仕事を採すため、仕事に就くまでの経済的問題（交通費の問題、所得保障の問題）
- こども部会
- ・事業所間の連携
- ・家族（本人以外の親、兄弟）への支援
- ・医療ケアの構築

柏市居住サポート事業研修会に参加して

○相談支援部会
 ・ネットワークの構築
 ・家族（親、兄弟、子）への支援
 ・生活習慣を学べない、生活・社会体験の少ないまま育った方への支援、
 共通した課題としては、家族支援の重要性や、事業所・関係機関の連携があげられていきます。
 連携の手段として連絡会など、具体的に組み組めそうなものもあがりました。

10月6日（水）に柏市居住サポート事業についての研修会がありました。居住サポート事業とは「民間賃貸住宅（アパート、一戸建て等）及び公営住宅への入居を希望しているが、保証人がいない等の理由により入居が困難な障害者に対し、入居に必要な調整等に係る支援を行うとともに、家主などへの相談、助言を通じて障害者の地域生活を支援する」事業です。

また地域包括的な医療ケアシステムなど、すぐに必要でも時間がかかることもあり、議論を重ねながら、具体的目標を設定していくことが必要だと思えます。いずれにしても支援を必要とする本人や家族にとつてわかりやすいシステムを作ることに視点を置きながら、先送りだけではない議論がどれほどできるかが、自立支援協議会の課題です。



不動産屋からえくるに住人の困ったケースについて相談をしてくる事もあるそうです。
 不動産屋は何かあった時に誰が駆けつけてくれるのか、他の入居者に迷惑がかららないか、といった点に不安を感じているとの事でした。

何かあった時に支援機関はすぐに駆けつける事が出来るのか、連帯保証人や緊急連絡先になる人がいない、といった時に支援機関がその責任と役割をどこまで担うのか、というのは難しい問題だと思えます。
 「不動産屋と支援機関との間で落としどころをどこにするのかが大切」とえくるの方はおっしゃっていました。

借りる側と貸す側が安心して「住まい」の契約を結ぶためにも、常日頃から支援機関は不動産屋と接する機会を作り、お互いの理解を深めておく必要があると感じました。

よじばあ・フォーラムに参加

10月16日（土）、よじばあ・フォーラムに参加しました。テーマは「ひきこもり」。講師は市川圏域の『中核地域生活支援センターがじゅまる』の朝比奈ミカさん。

多いのですが、「託す」という考え方は危険であること、
 ・ 周りが代わりにやっってはだめなこと
 ・ 「考える」「困る」「決める」
 ・ お父さん、お母さんも自分の人生を生きてください、と本人の自立を少しでも促したり、自立を損ねないこと、塀ではなく人垣で支えていこうとのエールで締めくくられました。

ひきこもりの定義は様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労・家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヶ月以上にならざるに概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしていてもよい）を指す概念です。
 ひきこもり状態にあること
 ・ 万世帯と推計されています。



NPO法人 おいじたくあんしんねっと



- ・ 〒277-008
- ・ 千葉県柏市戸張 980-4
- ・ TEL/FAX
04-7169-4165 (ヨイロウゴ)
- ・ E-Mail:
<http://www.anshinnet.jp/>
- ・ 理事長 伊藤 弘之



老いに関する様々な相談事、悩みなどに、専門家の方々が一つの組織として問題解決に取り組んでいる老いじたくあんしんねっとにお話を伺いました。

老いじたくあんしんねっととは、単独事業として、遺言や相続、成年後見制度、老後のライフプランについてのセミナー・講演会、無料相談会を開催しています。また勉強会を行い、毎月専門家の養成に力を注いでいます。メンバーは、弁護士、行政書士、社会福祉士、ファイナンシャルプランナー・等々、各分野の専門家の方々が36名います。

柏市との協働事業では、「老いじたくあんしん相談室」と称し柏市民の方を対象に、毎月第2・第4金曜日に無料相談会を実施。講師派遣・出前講座など、老いじたくに関して分からないことや悩みごとを解決するため様々な活動を行っています。利用までの手続きの流れはまず、電話をしていただきます。その後事務所面談、必要であれば訪問を行い

相談者の御自宅へ伺っての面談も行うとのこと。希望する人には具体的手続きなどの実行援助を行っています。相談に来る方は、70代の方が多くそうです。

老いじたくあんしんねっとの理事長、伊藤さんはこうおっしゃいます。「老いじたくを始める時期は人それぞれ、気がついた時から老いじたくが始まるのです」と。

市民の方へ、「ただ相談を受けるだけでなく、最後まで市民の方の立場に立って、支援することを意識しています。困ったことがあったら一人で悩まず安心して相談にいらしてください、解決するまでお手伝いします」というメッセージを頂きました。

高齢化社会の波が押し寄せている今、市民の方にとって頼りになる存在であると思えました。

おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707FAX:04-7165-8709)まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
第10回 地域生活支援フォーラム千葉 ～千葉県の障害福祉この10年を振り返ってこれからの展望する～ 講師:五十嵐 正人 氏 (ばおばぶ代表) :朝比奈 ミカ さん (その他、多数参加)	11/20 (土) 10:00 ～16:30 開場・受付 9:30～	千葉県労働者福祉センター /千葉市中央区千葉港 4-4 (JR 京葉線千葉みなと駅下車徒歩 10分/千葉都市モノレール千葉市役所前駅下車・徒歩 4分)	2000 円 (資料代)	必要 (先着 250名) ×切: 11/1 (月) (郵送、FAX、メールにて)	申込み/問い合わせ: 中核地域生活支援センター 海匠ネットワーク (担当:英一馬) 〒289-2511 千葉県旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579 E-Mail:sawayaka-n@rosario.jp
中核地域生活支援センター 2010年度シンポジウム 基調講演:「この国の貧困と子どもたちの未来」 講師:山野 良一 氏 (千葉明德短期大学)	11/30 (火) 13:00 ～16:30	千葉県文化会館 小ホール /千葉市中央区市場町 11-2 (千葉県庁近く)	無料	必要 (先着 250名) ×切: 11/22 (月) (郵送、FAX、メールにて)	申込み/問い合わせ 中核地域生活支援センター すけっと (中核地域生活支援センター連絡協議会事務局) 〒285-0026 千葉県佐倉市 鏑木仲田町 9-3 TEL:043-483-3718 FAX:043-483-3719 E-Mail:3718suketto@rc-aikoh.or.jp